

今年度の本校の教育活動に対するご協力・ご支援に感謝いたします！

富田中学校長 熊坂 洋

「子どもについて」 ハリール・ジブラーン作

あなたの子どもは あなたの子どもではない
それはいのちが待ち望んでいた いのちの息子であり娘なのだ

子どもはあなたを通過して生まれてくるが あなたから生まれたのではない
子どもはあなたと共にあるが あなたのものではない

あなたは子どもに愛を与えることはできるが
あなたの考えを与えることはできない
なぜなら子どもには子ども自身の考えがあるのだから

子どものからだは家に入れておくことはできるが
子どもの魂は家にとどめておくことはできない
なぜなら彼らの魂は明日の家に住んでおり
あなたはその場所に 夢の中でさえ訪れることはできないのだから

あなたが彼らのようになろうとするのはいいが
あなたのようにならせようとしてはいけない
いのちは決して後ろに下がったり 昨日にとどまったりしないのだから

あなたは弓であり、子どもは生きた矢 生きた矢はあなたによって放たれる
大いなる射手は終わりなき道の上をめがけて
力いっぱいあなたという弓を引きしぼり その矢を速く遠くへと飛ばすだろう

あなたは大いなる御手にその身を任せ 喜んで弓となりなさい
飛んでゆく矢が愛されているように
その御手にある弓も愛されているのだから

(和訳 はせがわみつる)

3月13日には、いよいよ最大の学校行事である卒業式が開催されます。

3年生には、この3年間の足跡を踏みしめ、自分は「今、ここに、いるんだ」という思いをもって式に臨んでほしいと考えています。また、主役は3年生ですが、1・2年生にも1年後、2年後の自分を思い描きながら、3年生への感謝の気持ちをもって式の準備や当日に臨んでほしいと思います。我々教職員も含め、全校体制で卒業式の成功を目指していきます。

3年生へ

「準備すること」と「万全を期すること」

サッカーの本田選手は、インタビューで「次の試合にはどう臨みますか？」と聞かれると、必ず『準備』という言葉を使います。

「全力で頑張る」ではなく「準備する」こと。当たり前のようにですが、とても重要なことだと思います。今、できることを手を抜かずにやること、それが「準備」だと思います。多くのアスリート達が、この「準備」という言葉をよく使っています。

同じように「万全を期す」という言葉があります。「ぬかりのないように準備すること」「少しの手落ちもないようにすること」という意味です。学校はもちろんですが、ご家庭におきましても、励ましはもちろん、健康管理、食事、生活のリズムづくりなどについてバックアップをお願いします。

高校入試はひとつのゴールラインであっても、最終ゴールではないということ。高校の価値は校名で決まるのではない。生徒本人の目的意識とやる気でその価値は決まるということです。

自分の今の力（成績）だと、A校の真ん中より下の方かもしれない。でもあえてA校に進み自分の力を試してみたい。いや、自分はB校なら上位にいれる。上位をキープし、進学を目指したいなど、様々な考え方があります。

ぶれることのない自分の「軸」をしっかりと持って、自分のこれからの挑戦してほしいと強く願います。

1・2年生へ

「富田中の顔」として…

□ 本校の生徒の『誇れるところ』（教職員のアンケートから）

「素直な心をもっている。人の話に素直に耳を傾ける心と態度がある。」

「諸活動に協力して一生懸命に取り組める。」

「落ち着いた学校生活を送っており、ルールを守ろうとする生徒が多い。」

「善悪の判断ができる。」

「学級、学年、学校、どのレベルでもまとまってやっということができる。」

「打てば響くところ」「明るくエネルギーなところ」

□ 本校の生徒に『欲しいもの』

◆ 規範意識や思いやりの心 → 様々な場面で心を耕す指導・支援を継続する

◆ 競り合ったときのパワー・たくましさ・強さ

→ 自分を表現する術(ず)を身に付ける（自分の思いや考えをはっきり伝える力）

→ 自ら考え、自ら行動できる力（自主自立）

◆ 「学習」に立ち向かっていく姿勢

→ 「何のための勉強なのか」という目的意識の醸成と、自分なりの学習方法の確立などの学習習慣づくり

→ 自分の考えや思いを相手にしっかりと伝える力

◆ “自信と誇り”

→ 「やった!」「できた!」という満足感や自己肯定感

→ 他を認め、リスペクトできる心

→ 学校・地域を愛する心情 “富中PRIDE”

◎ 「富田中の顔」として、どんな富田中をつくっていってくれるのか、大いに期待しています。